

埋文にいがた

No. 79
2012. 6. 29

新潟県埋蔵文化財調査事業団

平成23年度報告書刊行遺跡の紹介

さかい づか 境塚遺跡

(阿賀野市百津字境塚16-1ほか)

遺跡は、水原市街から南西1kmの水田地帯にあり、阿賀野川右岸に形成された標高7~7.5mの自然堤防上に立地します。平成21年に調査を行った結果、13世紀後半~14世紀前半の堀を持つ居館が見つかり、内部から多数の掘立柱建物や大型井戸を確認しました。出土品には、県内3例目となる鎌倉後期の中国天目や青磁瓜形合子などの貴重な舶載品*が含まれ、有力者の存在がうかがわれます。また、居館から約200m西の地点で幅6mの道が長さ61mにわたり見つかりました。13世紀後半に幹線道の整備と、道を基軸とした町場の形成が行われたのでしょうか。そして、その背景には、白河荘の地頭識であった大見氏の関与があったものと推測されます。

さて、2基の大型井戸からは、井戸側に用いられた縦板や棧木・隅柱などの部材が多数出土しました。特筆されるのは、これらの井戸側部材が接合して分割前の角材に復元できたことです。接合数は縦板13・棧木3・隅柱4の合計20個体です。接合個体に残る加工痕を分析した結果、縦板の製板工程は、原木伐採→長さ2m程度に分断→4分割に大割→細かく割って心を取り除く中割→刃物を差し込み薄く打ち割りする小割→仕上げの6工程と分かりました。また、中割段階に角材の表面や裏面には*印や斜線を組み合わせた刻印が施されています。この刻印は、大正期に村上市で薪を川に流して運搬する際に施された「キバン」と呼ばれる刻印によく似ています。キバンは薪の所有者を表しており、境塚遺跡の刻印も同様であった可能性があります。さらに、大型井戸SE1007の接合個体を年輪年代学的に解析した結果、縦板は1300年、棧木は1301年に伐採された可能性が高まりました。井戸作りのために伐採・中割された角材は、現地に運ばれて製材が行われたと考えられます。このように、井戸側部材は中世の井戸作りを伝える貴重な情報を秘めているのです。

(新潟県教育庁文化行政課 荒川 隆史)

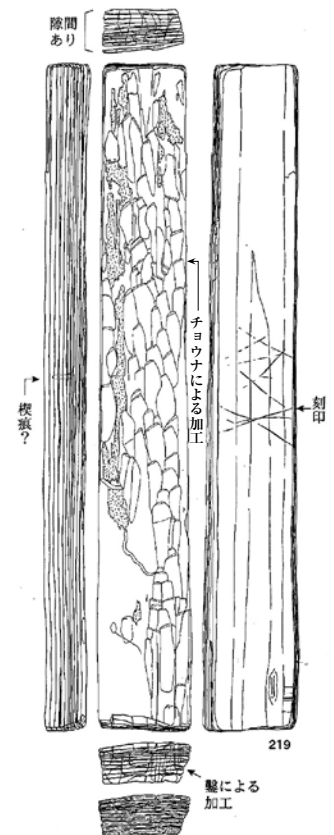
* 舶載品とは、当時の中国(宋)等との貿易によって日本にもたらされた輸入品。



大型井戸SE1007の縦板・棧木・隅柱・水溜め

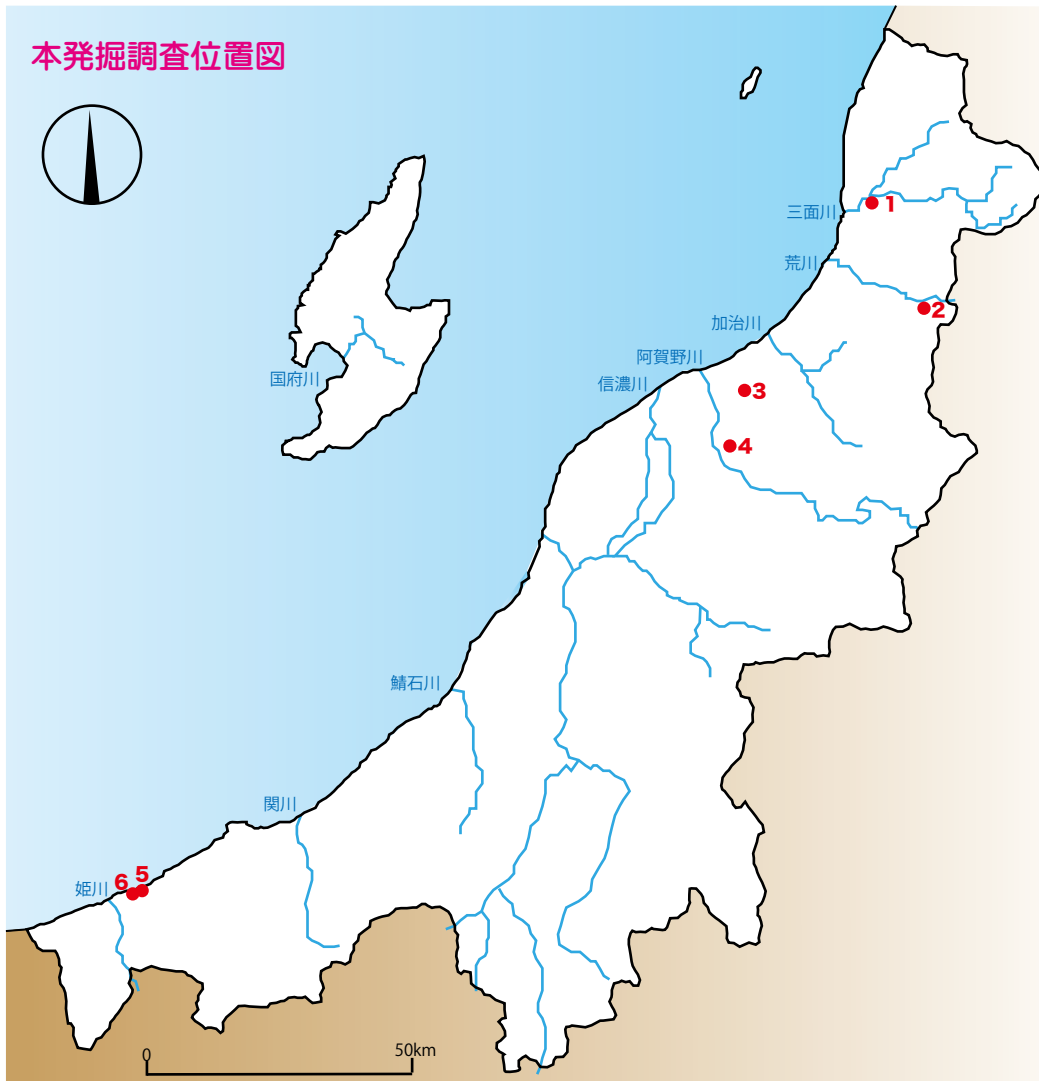


縦板の裏面に施された刻印



縦板10点が接合した
中割角材個体の実測図
(長さ199cm)

平成 24 年度発掘調査遺跡・整理作業・試掘確認予定一覧



本発掘調査

番号	遺跡名	事業名	所在地	調査期間	主な時代
1	かやまち遺跡	国道113号 鷹ノ巣道路	関川村	7～9月	縄文
2	きつねやしき狐屋敷遺跡	国道7号 小川交差点改良	村上市	4～6月	中世
3	やまぐちのなか山口野中遺跡	国道49号 阿賀野バイパス	阿賀野市	4～8月	古代・中世
4	こゑなと小船渡遺跡	国道7号 新発田拡幅	阿賀野市	9～12月	古代・中世
5	ろくたんだみなみ六反田南遺跡Ⅶ	国道17号 糸魚川バイパス	糸魚川市	4～11月	縄文・古墳・古代
6	ひめごほ姫御前遺跡Ⅲ	北陸新幹線	糸魚川市	7～8月	古墳・中世

試掘確認調査

番号	事業名	遺跡・区間名	所在地
1		アワラ遺跡	糸魚川市
2	北陸新幹線 糸魚川融雪基地	六反田南遺跡	
3		田海字八久保地区	
4	国道7号小川交差点改良	小川公会堂周辺地区	村上市
5	国道113号鷹ノ巣道路	越後片貝地区ほか	関川村
6	国道7号新発田拡幅	中曽根～小舟町地区	新発田市
7		中曽根3丁目地区	
8	姥ヶ山インターチェンジ事故対策	姥ヶ山地区	新潟市
9	国道8号白根バイパス	鯉淵～上下諏訪木地区	
10	国道49号阿賀野バイパス	山口遺跡	阿賀野市
11	国道8号栄拡幅	善久寺地区	三条市
12	国道17号浦佐バイパス	大浦地区	魚沼市
13	国道8号柏崎バイパス	宝田～茨目地区	柏崎市
14	国道253号上越三和道路	二反割遺跡	上越市
15		谷内割遺跡	
16		古屋割遺跡	

整理作業

番号	遺跡名	所在地	主な時代
1	やち野地遺跡	胎内市	縄文
2	こゑかいつけ小坂居付遺跡	新潟市	中世
3	だいに大武遺跡Ⅱ	長岡市	縄文
4	けんのさわ剣野沢遺跡	柏崎市	縄文・中世
5	やまざき山崎遺跡	柏崎市	平安・中世
6	まちがみ町上遺跡	魚沼市	縄文
7	みやばなちよう宮花町遺跡	糸魚川市	中世

平成24年度発掘調査遺跡の紹介

きつね や しき
 狐 屋 敷 遺 跡

(村上市小川字狐屋敷地内)

国道7号小川交差点改良工事に伴い、平成24年4月から6月上旬まで遺跡の発掘調査を行いました。遺跡は三面川左岸の沖積地に立地し、遺跡が検出される標高は12.0m前後です。室町時代（15世紀頃）の集落跡で、調査面積は675㎡です。

検出した遺構には、ピット・柱穴・土坑・井戸・自然流路・畑の耕作跡とみられる溝等があります。井戸には素掘りのもの、木材で井戸枠を組んだもの、石組のもの、石組で水溜に桶を使用したものがあります。石組の井戸は、下越地方に多く見られる造り方です。今回の調査範囲では、建物跡は検出できていません。しかし、現在の国道脇にある水路下にも遺構が延びていると考えられ、水路を移設した後に継続調査を実施する予定です。

出土した遺物は、珠洲焼の壺・甕・片口鉢、越前焼の片口鉢、瀬戸焼、青磁椀・白磁皿、砥石・石臼など中世のものが大半を占めますが、平安時代の土師器・須恵器も少量出土しています。

今回の調査範囲は狭小なため、全体像は不明ですが、集落は調査区東側の水田・畑地、西側の現小川集落に広がっていると推定されます。

今後、検出した遺構と遺物を詳細に検討し、中世集落の様子の一部を明らかにしたいと考えています。

(佐藤 友子)



遺跡全景 (南から)



木枠のある井戸



石組井戸



石組と水溜めの桶を入れた井戸

越後国域確定1300年

新潟県のかたちを求めて



越後国域確定1300年

越後を含む北陸地域は、飛鳥時代に越国こしのくにと呼ばれていました。大化3(647)年に淳足柵ぬたりぎ、翌年には磐舟柵いわふねぎが造られ、このころには阿賀野川より北の地域も越国に含まれたと考えられています。その後、越国は越前・越中・越後の3国に分かれましたが、越後国は阿賀野川以北に限られていました。しかし、大宝2(702)年には越中国の一部が越後国に組み入れられ、和銅元(708)年には越後国の北側に新たに新出羽郡が置かれました。新出羽郡は、和銅5(712)年に新出羽国として分立し、これをもって、越後国域が確定しました。平成24年は、越後国域が確定して1300周年を迎えます。国域の確定は、その後の政治・経済・文化に大きな影響を与え、現在の新潟県の礎になりました。

新潟県内には、12,937か所の遺跡が登録されています(平成24年5月1日現在)。このうち、飛鳥時代から平安時代の遺跡数は約4千か所です。県内外に広く知られる淳足柵・磐舟柵は、東北地方の蝦夷に備えるための軍事・行政施設ですが、いまだその場所を特定するには至っていません。しかし、平成2年に長岡市の国史跡八幡林官衙遺跡はちまんばやしかながで出土した「沼垂城」と書かれた木簡もっかんは、「淳足城」が「沼垂城」と名を変えて8世紀初めまで存続していたことを示す画期的な発見となりました。近年の発掘調査でも重要な発見がありました。村上市西部遺跡むらかみでは、奈良時代～平安時代の大規模な鍛冶工房のほか、「頸城宮」と書かれた漆紙文書が出土しました。「頸城宮」は越後国府を指す可能性があり、磐舟柵の推定地に程近い西部遺跡の性格が注目されます。

このように、本県には古代史を解き明かす数多くの遺跡や出土品があります。本県にとって節目となる今年度、新潟県教育委員会では県を代表する埋蔵文化財の活用を図ることを通じて、県の成り立ちや特色を学ぶことができるリレー講演会やシンポジウム・遺跡ウォーキングなどの事業を展開します。

また、県内の埋蔵文化財関係イベントを集約した広報冊子「新潟まいぶんナビ」を発行します。

詳しくは新潟県教育庁文化行政課ホームページ

<http://www.pref.niigata.lg.jp/bunkagyosei/>をご覧ください。

皆様のお越しをお待ちしております。

(教育庁文化行政課 荒川 隆史)

全7参加費無料!

いずれも申込が必要です。

【お問い合わせ先】

新潟県文化行政課埋蔵文化財係

電話：025-280-5620



越後国の変遷
(新潟県立歴史博物館2004
「越後佐渡の古代ロマン展図録」)

■リレー講演会(古代の新潟に関する全9回の講演会)

日程	会場	タイトル
6月2日(土)	佐渡市トキのむら元気館	「古代佐渡国と北東アジア」ほか
6月30日(土)	阿賀野市ふれあい会館	「謎の淳足柵と越後国の成立」ほか
9月2日(日)	加茂文化会館	「古代日本海の交通と衣服」ほか
9月16日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「越から越後・佐渡へ」
10月14日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「出土文字資料が語る古代の越後・佐渡」
10月27日(土)	上越市埋蔵文化財センター	「ヤマト政権の越後進出について一神の済・弥彦神社」ほか
11月18日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「高田平野の古代社会-延命寺遺跡を中心に-」
12月9日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「考古資料から考える大宝二年の越中国四郡分割」
1月19日(土)	新潟県立歴史博物館	「出羽国と越後」ほか

■記念シンポジウム「遺跡が語る越後・佐渡のかたち」

9月23日(日)	新潟ユニゾンプラザ	「遺跡が語る越後・佐渡のかたち」
----------	-----------	------------------

■遺跡ウォーキング(駅から遺跡まで散策)

6月16日(土)	妙高市鯨ヶ尾城跡	妙高市北新井駅から鯨ヶ尾城跡を散策
7月7日(土)	南魚沼市坂戸城跡	南魚沼市六日町駅から坂戸城跡頂上までを歩く

※第3回は県指定史跡津川城(阿賀町、11月)を予定しています。実施が決定次第、詳細を公開します。

越後国域確定1300年記念事業

新潟県埋蔵文化財センターで開催する行事



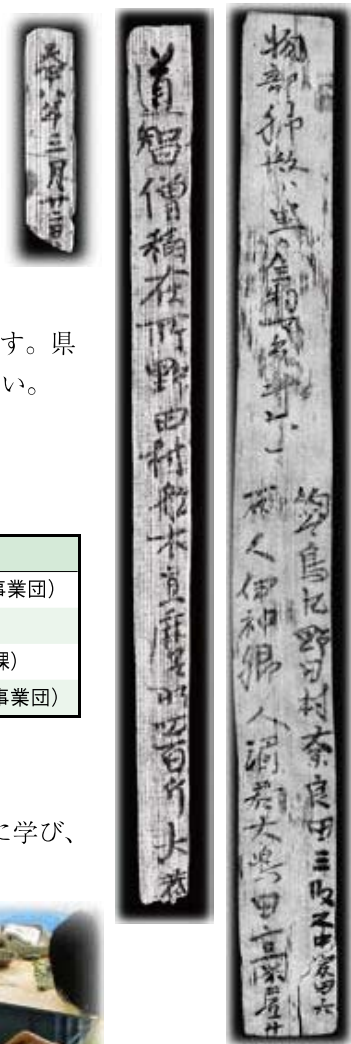
越後国域確定1300年

■企画展 (9月1日～平成25年3月31日)

新潟県埋蔵文化財センターエントランスにて、越後国域確定1300年記念事業として「遺跡が語る古代のいがた」として企画展を開催します。展示では古墳時代末期から平安時代にかけての遺跡・遺物を通して、越後国域が確定した頃の社会の変化を概観します。展示品は新潟県教育委員会が発掘調査した遺跡から、各時代を代表する遺物を選んで展示します。

延命寺遺跡の木簡、箕輪遺跡の墨書土器、滝寺古窯跡群・大貫古窯跡群などの遺物を展示する予定です。

9月16日(日)開催の第4回リレー講演会では、展示解説も併せて行います。県教育委員会所蔵の文字資料が一堂に会する絶好の機会です。ぜひ、ご覧ください。

延命寺遺跡 木簡
(縮尺不同)

■リレー講演会

参加申込が必要です(各回定員80名/先着順・申込受付:7月30日開始)

回	日程	タイトル	講師
4	9月16日(日)	「越から越後・佐渡へ」	三ッ井朋子(新潟県埋蔵文化財調査事業団)
5	10月14日(日)	「出土文字資料が語る古代の越後・佐渡」	浅井 勝利(新潟県立歴史博物館)
7	11月18日(日)	「高田野の古代社会—延命寺遺跡を中心に—」	山崎 忠良(新潟県教育庁文化行政課)
8	12月9日(日)	「考古資料から考える大宝二年の越中国四郡分割」	春日 真実(新潟県埋蔵文化財調査事業団)

■親子考古学教室

参加申込が必要です(各回定員20組40名/抽選・申込受付:7月2日開始)

「火起こし」「勾玉作り」などを通して、古代の人々の暮らしを親子で一緒に学び、体験してみましょう。

開催日時:7月29日(日)・8月19日(日)9:30～15:30(受付9:00)

(両日とも内容は同じです)

会場:新潟県埋蔵文化財センター

受付期間:7月2日(月)～7月18日(水)

(抽選)



■まいぶん祭り

参加申込が必要です(抽選/申込受付:7月30日開始)

「火起こし」「勾玉作り」「土器作り」などを行うほか、普段は見る事ができない保存処理施設などの見学ができます。体験内容によって、定員が異なりますので、お申し込みの際にご確認ください。

また、当日開催される第4回リレー講演会では、越後国域確定1300年企画展の解説も行われます。こちらは別途申込が必要です。是非、まいぶん祭りと合わせてお申し込みください。

開催日時:9月16日(日)9:00～16:00(受付9:00)

会場:新潟県埋蔵文化財センター

受付期間:7月30日(月)～9月13日(木)(抽選)

リレー講演会第4・5・7・8回/
親子考古学教室/まいぶん祭り
【申込先】

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
電話:0250-25-3981
FAX:0250-25-3986
メール:niigata@maibun.net.

県内の遺跡・遺物77

はまばたどうけつ
浜端洞穴遺跡出土品 (昭和48年3月県指定)(所在地：佐渡市高瀬^{たこせ}1235-1)

浜端洞穴遺跡は、佐渡二見半島西海岸にあります。遺跡のある場所は、大佐渡の山塊が高さ30mの急な崖になって海に落ち込んでいるところで、この崖中腹の海蝕洞穴に遺跡が残されています。海蝕洞穴とは、海岸の崖にある断層や割れ目などの弱い部分が風や波浪によって浸食されてできた洞穴です。浜端洞穴は海から36m入った海拔4mのところであり、幅約2mで北西に開口しています。土取り工事で入口は壊れていますが、奥行きは1.7mあります。



遺跡現況 (南東から)



遺跡下から日本海を望む

昭和43・44年に発掘調査が行われ、約10層にわたる堆積層から土器、管玉未成品、骨角器^{こつかくき}・卜骨^{ぼっこつ}・人骨が検出され、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての洞穴遺跡であることが確認されました。卜骨は古いに使われた鹿の骨で、『魏志倭人伝』にも記載があります。また、上野国一宮神社貫前神社の卜鹿神事として「…鹿の肩骨を抜き、長4、5寸許、巾3、4分許りに刷り磨き置きて神前にて卜事を行ふ。そは盤上に件の肩骨を置て、忌火にて錐を突て卜ふなり…」そして錐が通れば大吉、通らなければ凶であって祈祷を行う、とあります(伴信友『正卜考』1858年)。卜骨写真左端のものは長さ10.6cm、左右両面が鋭利な刃物で削られ、さらに左面は厚さを一様に整えるため、盛り上がった部分が削り取られています。光沢があるので、研磨を受けたようです。4か所の穴のうち3か所には灼痕が残り、焼痕も見られます。



卜骨

弥生時代から古墳時代の洞穴遺跡は少なく、特に卜骨の出土例は、県内では佐渡市千種遺跡の1例があるのみで全国的にも稀少で、学術的な価値が極めて高いものです。



貝鏃

参考資料：『佐渡浜端・夫婦岩洞穴遺跡調査概報』[立教大学考古学研究会1968]、『佐渡浜端・夫婦岩洞穴遺跡の調査』相川郷土博物館報六[森三郎編1969]、『新潟県史 資料編1 原始・古代一 考古編』[新潟県1983]

資料提供：佐渡市



貝輪・貝製品

埋文にいがた No.79

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
TEL (0250)25-3981
FAX (0250)25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 株式会社ハイグラフィック

【『埋文にいがた』No.79 正誤表】

2 頁

番号	遺跡名	事業名	所在地	調査期間	主な時代
1	きつねやしき 狐屋敷遺跡	国道7号 小川交差点改良	村上市	4～6月	中世
2	かやまち カヤマチ遺跡	国道113号 鷹ノ巣道路	関川村	7～9月	縄文
3	こふなと 小船渡遺跡	国道7号 新発田拡幅	新発田市	9～12月	古代・中世
4	やまぐち のなか 山口野中遺跡	国道49号 阿賀野バイパス	阿賀野市	4～8月	古代・中世
5	ろくたんだ みなみ 六反田南遺跡(VII)	国道17号 糸魚川東バイパス	糸魚川市	4～11月	縄文・古墳・古代
6	ひめごせ 姫御前遺跡(III)	北陸新幹線	糸魚川市	7～8月	古墳・中世

頁・行	誤	正
4 頁 2 行目	淳足柵	淳足柵